

令和2年7月31日

令和元年度学校医関係者評価委員会報告書

四国医療専門学校
学校関係者評価委員会

四国医療専門学校学校関係者評価委員会は、令和元年度自己点検・評価報告書に基づき、以下のとおり、学校関係者評価を実施いたしました。

1. 学校関係者評価委員

- ・地域住民の代表者
谷川 俊博（宇多津町長）
- ・業界団体の役職者
宮武 功哲（一般社団法人香川県鍼灸マッサージ師会長）
大塚 安混（一般社団法人香川県鍼灸師会 副会長）
田岡 知代（一般社団法人香川県理学療法士会 理事）
五味 陽子（一般社団法人香川県作業療法士会 監事）
石原 誠（公益社団法人香川県柔道整復師会長）
安藤 幸代（公益社団法人香川県看護協会会長）
山田 佳弘（徳島県トレーナー協会会長）
- ・学校と関連のある高等学校関係者
渡邊 浩三（香川県立丸亀城西高等学校長）
松田 英司（香川県立飯山高等学校長）
志賀 紀之（香川県立琴平高等学校長）
- ・保護者代表者
川原 裕樹
- ・卒業生代表者
白井 直樹（柔道整復学科同窓会「四柔会」会長）
村川 琢人（四国医療リハビリテーション同窓会長）

2. 学校関係者評価委員会議事録

- ・開催日時 令和2年7月5日（日）13:00～14:05
- ・開催場所 四国医療専門学校3号館講堂
- ・出席者
委員：谷川俊博（議長）、宮武功哲、大塚安混、石原 誠、田岡知代、五味陽子、安藤幸代、渡邊浩三、松田英司、志賀紀之。川原裕樹、白井直樹
学校役職員：
石川 浩（学校長）、笠井勝代（副学校長）、大麻陽子（同）、小森元章（学校事務局長）、襖田和敏（鍼灸マッサージ学科・鍼灸学科長）、猪越孝治（柔道整復学科長）、高橋謙一（理学療法学科長・学校長補佐）、松本嘉次郎（作業療法学科長）、政本好子（看護学科教務主任）、中江秀美（看護学科長）、浪尾敬一（スポーツ医療学科長）、青木みゆき（学校事務局学務部長）、山下博志（学校事務局総務部長/進行・書記）
- ・欠席者：村川琢人、山田佳弘
- ・議事の経過及び結果
1) 開会
山下より、開会を宣する旨の発言があった。なお、新型コロナウイルス感染症（以下

「コロナ」という。)の感染防止の観点から、委員及び学校教職員の紹介は、出席一覧表及び配席表をもって代えとの説明があった。

2) 学校長挨拶

石川より、委員に対し、コロナの感染者数が再び増加しつつある中にご出席いただいたことへの謝辞があり、今後の本校の更なる教育の充実等のために自己点検・評価報告書に対する忌憚のない意見・提言等をお願いしたいと挨拶があった。

3) 委員会成立確認及び議長選任

山下は、委員 12 名（委員総数 14 名）の出席をもって本委員会が成立したことを報告した。また、委員による互選の結果、谷川俊博委員が議長に就いた。

4) 前年度の委員会提言等を踏まえた取組状況報告

議長は、事務局に報告するよう求めた。それを受け、山下は、昨年度の当該委員会において、退学率の低減及び柔道整復師国家試験合格率の向上に係る意見等があり、それに対する令和元年度の取組について報告を行った。

前者については、学習面、精神面及び学費支援面それぞれに対応を取ったが、退学者数は前年度と同じ 35 人であったこと（総実員の減少に伴い、退学率は 0.2 ポイント悪化）を報告し、引き続き退学者の低減に向けて努力している旨を伝えた。

後者については、国家試験対策授業及び模擬試験の強化等を図り、令和元年度卒業生の合格率は、全国平均並みに改善したことを報告した。併せて、前年度の合格率が急落した作業療法士国家試験についても、諸施策を講じた結果、令和元年度卒業生の合格率は全国平均並みに戻ったことを伝えた。

5) 議案の審議

(1)令和元年度自己点検・評価報告書の概要説明

議長の指示により、山下は、自己点検・評価報告書に基づき、その概要について説明を行った。

(2)自己点検・評価報告書に対する意見・提言、質問等

議長より委員に対し意見・提言、質問を求めた。委員の意見等及び学校教職員の回答は次のとおり。

- ・松田:報告書の 16 頁に看護教員資格とあるが、看護教員は、何人程度の学生が取得しているのか。同じく、16 頁に他職種連携とあるが、これについて説明をお願いしたい。
- ・中江 (回答):看護教員資格は、8~9 割の学生が取得している。他職種連携は、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正により、令和 4 年度より新たに盛込まれる予定の内容であるが、本校では、本年 2 月に、理学療法学科、作業療法学科及び看護学科で多職種連携演習を行い、その端緒に着いた。また ICT 教育についても導入していきたいと考えている。
- ・石原:定員確保や国家試験合格率の目標値は、100%に設定すべきではないのか。
- ・山下 (回答):確かにご指摘のとおりだと思うが、過去数年の実績から 100%の達成が難しい学科もあり、必達の数値の 20~30%増しの数値を目標値として掲げている。
- ・宮武:鍼灸マッサージ学科在校生の男女比、学歴別等のデータは公表しないのか。
- ・襖田 (回答):鍼灸マッサージ学科 (以下「鍼マ」という。)は、毎年度大きな変動はないが、鍼灸学科 (以下「鍼灸」という。)は、学生数が少ないことから 1 人の占める割合が大きい。そのため、年度によりそのデータが大きく異なったり、極端な数字となったりすることがあるため、公にはしづらい状況にある。
- ・小森 (補足):令和元年 5 月 1 日現在の男女数は、3 学年合わせて鍼マは男性 50 人、女性 36 人、鍼灸 1 部は 22 人、23 人、鍼灸 2 部は 17 人、14 人である。

- ・宮武:鍼マ・鍼灸への理学療法士や作業療法士の入学状況は如何か。
- ・襖田 (回答) :年度により変動があるものの、鍼マ・鍼灸合わせて 50 人程度の入学者のうち、医療国家資格保有者は、概ね 10 人弱である。これは過去に比べれば減少傾向にあると感じている。また、大卒者の基礎科目の免除については、以前は約半数が該当していたが、今は 4 分の 1 程度 (10 数名) と、大卒社会人の入学者数が減少している。
- ・安藤:新人看護師の離職率が高く (12.5%)、その改善のために学校と連携を行った結果、翌年度は 7%程度に改善した実績がある。したがって、引き続き、学校との連携・協力を進めていきたい。
- ・中江 (回答) :病院等就職先との連携については、単に卒業生を送り込むというだけではなく、学生が個別にどういった学力・能力を持っているかを把握し、就職させる必要があると感じている。学生は自分の能力を過信する傾向にあるため、学生は自分の希望する就職先に執着するが、学校としてその学生に合った就職先を勧めるようにし、学生と共に将来を考えられるよう指導していきたい。
- ・白井:コロナの影響で患者の 20%が来院しなくなった。昨年この場で多角経営をしないと接骨院の経営は厳しいと発言したが、コロナの影響で更に厳しくなった。従って、将来を見据えた経営感覚が必要となる。
- ・五味:作業療法学科の入学者数が低調であり、年度により大きな波があるため、それを是正し、加えて卒業生の紹介による入学制度も構築しているようなので、是非とも定員を充足させてほしい。また、臨床の場でどのようにしたらよいかを考えることのできる学生が減っているため、そういった教育にも力を注いでほしい。
- ・松本 (回答) :定員を確保できない理由について、いろいろ分析はしているが、確固たる理由が見つけられずにいる状況である。また、後者については、学校、現場 (職場)、職能団体がそれぞれ連携しながら実施していくのが望ましく、そのようにしていきたいと考えている。
- ・谷川:コロナの影響について、宇多津町立の小・中学校ではオンライン授業を進めているが、貴校ではどのようにしているのか。
- ・青木 (回答) :オンライン (遠隔) 授業は、実施可能な教員から始め、3 分の 1 程度の教員が実施している。そして、今は、対面授業と可能な科目は、遠隔授業を両立して実施している。なお、今月に入り、遠隔授業に関する研修会を実施しており、今後は、コロナに関係なく遠隔授業を進めていきたいと考えている。
- ・谷川:鍼灸 1 部の就職率のみ極端に低い、この理由について教えてほしい。
- ・襖田 (回答) :理由は 3 つある。1 つ目は、国家試験受験後に就職活動を始める学生が多いが、今年は、コロナの影響でその活動がままならなかったこと。
2 つ目は、3 年生の担任が年度末に退職したことから、学生との密な連絡・指導が図れなかったこと。3 つ目は、いわゆる「腰掛け」としてその仕事に就くことが散見されることが挙げられる。なお、今年度内には未就職者についても就職先が決定し、就職率が向上することになると思われる。

6. 閉会

議長より、議題は全て終了し、本委員会を終了する旨を宣した。

以上